



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL: 03-5363-3802 FAX: 03-3355-4707
発行者：北野正剛
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
和田則仁 (慶應義塾大学医学部外科学教室)
印刷：株式会社 dig TEL: 03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

ISS/SIC の最近の動向と Court of Honor に就任して

国際医療福祉大学学長
ISS/SIC 名誉会員、元会長
ISS/SIC Court of Honor

北島政樹



今年度の ISS/SIC はタイのバンコックで8月23日から27日に開催されました。しかし今回の学会が開催される直前に種々の学会関係の問題が発生し、および2度の爆弾テロが8月17日、18日に発生いたしました。最初はエラワン廟で死者が20人、怪我人125人の中には邦人男性も含まれていました。第二の爆発はサートン船着場という水上の交通機関の中心駅でありました。私自身も当初はどうしても出席しなければならないと思い準備をしていましたが、日本支部に多くの大学から不参加の報告があったと聞いておりました。さらに日本の企業の不参加の情報も次第に増え情勢の悪化を示しておりました。

私が今回はどうしても参加しなければと思った理由にはいくつかあります。2013年にバンコックで ISS/SIC が開催予定でありましたが SIRS (Systemic Inflammatory Response Syndrome) の発生で中止となったことがありました。本来ですとドイツ外科学会会長の Jorg R. Siewert 教授が会長の予定で、私が2005年の南アフリカのダーバンでの会長に決まっていた。しかし二人がそれぞれ次回に移動し、私は2007年のモントリオール会長に就任したわけでありました。従って今回はどうしてもタイの LOC がバンコック開催を強く望んだことと、Göran Akerström 会長主催のヘルシンキでの ISS/SIC の帰国時に Airport で Nopadol Wora-Urai 会長とばったりお会いし、ぜひ次回には参加することを約束しておりました。また私は横浜開催の学会で ISDS の会長を務めておりましたのでバンコックの学会の副会長でもありました。

さらに学会開催の数週間前に前 Secretary General の Dr. Felix Harder および Mr. Victor Bertschi からメールが届きました。現在の理事会が ISS の Renaming

を計画し WSS (World Society of Surgery) に変更しようとしており、過去の輝かしい ISS の歴史を変えることに賛同出来ない、ということでした。過去の会長共々、私にも同意を求め、同時に、Napadol Wora-Urai 会長と Jean-Claude Givel 事務局長にメールを送ってほしいという依頼でありました。ISS/SIC には長い輝かしい伝統があり、CICD が ISDS に変わってすぐに会員が馴染んだというのが伝統とスケールの大きさと深さが異なることを強調したメールを送付いたしました。お二人からすぐに趣旨を十分に理解したので慎重に対応するという返信がきました。Renaming が一件落ち着いたところで、Mr. Victor Bertschi より ISS/SIC の役目の重要性を熟知し、国際的な他分野の代表である条件で、新たに「COURT OF HONOR」という役職を設置するので就任してほしいという依頼のメールが届きました。候補者として ISS/SIC 元会長、理事であった私と元 Secretary General の Prof. Dr. Felix Harder および元 IATSIC 会長で US Chapter 会長の Prof. Dr. Ronald V. Maier を総会で推薦したいとの事でした。日本支部会新・旧の北野正剛、北川雄光会長とも事前に相談し、受諾させていただく事になりました。

今回46回 ISS/SIC に出席してこれらの事柄を見届け、Napadol Wora-Urai 会長に心より学会の成功を直接伝えたい気持ちでいた時に爆弾テロ事件が発生したわけでありました。この混乱の対応策として、Felix Harder、Jean-Claude Givel、Victor Bertschi、Napadol Wora-Urai などがパリーバンコック間の国際電話会議で学会の開催の相談をし決定したと聞いておりました。私も2回目の爆弾事件で欠席を決意し、Napadol 会長、Givel 事務局長及び ISDS の Tonia Fadock 会長に欠席の意思を伝えたところ3人から理解したという返信がありました。欧米の理事達の中にはテロよりも地震や放射能のほうが怖いと言っていた人もいたと聞いております。

理事会の翌日に Jean-Claude Givel 事務局長が急逝された悲報を受けた時は悲しい思いで一杯でした。4年前の東北地震の時に Givel 事務局長は自分が関係しているヨーロッパのバレエ舞踏団に随行し来日され、我々と旧交を温めました。その時、自ら東北に義捐金を届けると仙台に向かわれました。このような心温かい人柄を思い出し、衷心より冥福を祈った次第であります。しかし学会が種々のリスクを抱えながら成功裏に終わったことが今回の何よりの慰めとなりました。

今後は Court of Honor として ISS/SIC の発展の為、微力ながら尽力する所存であります。

WCS2015 Bangkok に参加して

大分大学長
ISS/SIC Councillor
ISS/SIC 日本支部長 (2015年8月～)

北野正剛



「とんでもない時に行ったんですね!」と皆から言われました。

残念ながら多くの外科医が所属施設やご家族の意向もあり、恐らく行きたいのは山々だけれども断念されたことだと推察します。

もちろん WCS 開催数日前に起こった爆弾テロ事件によるものです。

小生はタイのマヒドン大学との大学間協定を在タイ日本国大使館にて特命全権大使立会いのもと締結する用務もあり、当初の予定通り、爆発の4日後に出発しました。警戒が厳重な今が一番安全なのだと信じて(?)行ってきました。

宿泊ホテルは学会場の隣のインターコンチネンタルホテルで現場(写真)から約15mの至近距離でした。はじめはやや緊張しながら現場を見に行きましたが、その後は日に何度となくその場所を通ることもあり、すっかりリラックスしました。滞在中、周辺も含めて全く日常と変わりなく、平和な時が流れていました。思い返しますと、最初に小生が出席した国際会議は1980年リスボンで開催された国際消化器外科学会 CICD で構成学会である ISDS の前身ですから、35年も前のことになります。当時の井口潔教授、杉町圭三講師、兼松隆之助手に連れられて大学院生の私に勉強させようという親心で、発表もなく参加したのも懐かしく思い出します。80年代後半からはほとんど毎回出席していますが、そのたびに何か驚く

ことや波乱が起こり、とても記憶に残る学会です。今回、理事会において ISS/SIC という長年親しまれた名称を World Society of Surgery に変更しようとの動きがありましたが、Court of Honor にご就任の北島政樹前会長のご指導により、変更の議案が総会出席者のうち賛同は2名のみで、否決されました。小生も意見を聞かれた折、そもそも構成員や分野に変化がなければ名称変更の必要性はなく、ただ単に名称の最初に「世界」とある方が大きく見えるといったような理由では110年の歴史ある名称を変更することに反対であると申し上げていましたので、大変うれしく思いました。

ここにも北島政樹学長のリーダーシップが発揮されたことを日本の外科医として誇らしく感じた次第です。

これまで ISS Councillor を務められた北川雄光教授の後を継ぎ、日本支部代表を小生が務めさせていただくことになり、責務の大きさに身が引き締まる思いです。

本会は1902年創設、1905年に第一回総会がノーベル医学生理学賞受賞者の Theodor Kocher 教授により開催されたという輝かしい歴史を有し、多くの先達様が大切に運営され、日本の存在が大きなものになっている現状を踏まえ、その歴史を汚すことなく更なる発展のため努力する所存です。幸い事務局は引き続き慶應義塾大学 和田則仁先生にお願いすることで安心していただいております。これから日本支部代表として少しでも皆様のお役にたてるよう務めさせて頂く所存です。

皆様の温かい支援をお願いしてご挨拶とさせていただきます。



8月17日バンコク爆破テロの現場となったヒンズー教 Erawan Shrine (8.22 筆者撮影)

万国外科学会理事、 日本支部長退任のご挨拶

慶應義塾大学医学部外科学教授
前 ISS/SIC Councillor
前 ISS/SIC 日本支部長

北川雄光



この度、2007 年より拝命した万国外科学会日本支部長、2011 年より拝命した万国外科学会理事の職を任期満了をもちまして退任させていただくことになりました。前任の山川達郎先生、そして万国外科学会名誉会員であられる比企能樹先生、北島政樹先生はじめ多くの先生方のご指導、ご支援を頂きまして何とか無事に務めさせていただきましました。「無事」と申しましても、思い起こせばその間いろいろなことがございました。

2011 年 3 月、ISW2011 横浜を目前に控えて東日本大震災、原発事故が発生し、途方に暮れたことを思い出します。皆様のご尽力で、何とか無事開催することができました。海外からも多くのご支援、ご理解を頂いて渡邊昌彦 LOC 会長のもと大変な盛会となり、その後万国外科学会で発表する若手を支援するための Yokohama Award を設立することもできました。

今回、8 月の World Congress of Surgery 2015 直前に、開催地タイのバンコクにおいて連続爆破テロ事件が起こるという事態となりました。タイでは ISW2003 が SARS の流行のため中止となった経緯があり、「悪夢の再来」かと大きな衝撃

が走りました。万国外科学会関係幹部による緊急会議が行われ最終的に予定通り決行することが決まりましたが、日本支部長としては極めて難しい判断を迫られました。2011 年大震災に加え、原発事故が発生し不透明な状況の中で、多くの外科医が世界から集まってくれたことを思うと、今回日本支部だけが、公式に不参加を表明することは困難でした。現地の状況、外務省からの情報をなるべく正確に日本支部会員の皆様にお伝えし、参加のご判断は会員の先生方の自主判断にお任せすることとなりました。私の教室でも若手医師は参加を自粛し、私自身を含めて学会で司会や発表のあるスタッフで参加を厭わない者だけが自主的に参加することとしました。不参加となった場合のキャンセル料その他も教室負担とし、若手医師が自由意志を表明しやすいように配慮致しました。現地では様々な会議に加えて司会や発表の代行でてんてこ舞いでしたが、会期中のテロ事件もなく無事任務を終えることができました。一方、会期中に万国外科学会の Secretary General として長年貢献され、私自身も大変お世話になった Dr. Jean-Claude Givel が会場のホテルで急逝されるという悲しい出来事がありました。今後の本会の運営にも大きな影響を与えるショッキングな出来事でした。

こうして振り返りますと、波瀾万丈の数年間でしたがこの間海外の多くの友人を得られましたのは、私にとりましては大きな財産となりました。また、今回から万国外科学会理事、日本支部長を大分大学学長の北野正剛先生にお務めいただくこととなりました。北野先生はすでにあらゆる分野で世界的にご高名な外科医でありますので、日本支部にとりましても大変心強く、大変なご多忙の中をお引き受けいただけましたこと、感謝の気持ちで一杯です。

最後にこれまでご支援、ご指導を下さいました日本支部の先生方に心より御礼を申し上げまして、私からの退任のご挨拶とさせていただきます。8 年間の長きにわたり本当にありがとうございました。

万国外科学会の これからの発展を願って

徳島大学外科消化器・移植外科教授
ISDS Program Committee Member
島田光生



私と万国外科学会 (International Society of Surgery: ISS) の関わりの中で大きな出来事の 2 つを紹介して、今後の日本支部の発展に繋げるきっかけにしたいと思います。

一つは、2009 年のアデレードでの学会 (43rd International Surgical Week: Prof. Sarr 会長) で、初めて漢方のランチョンセミナーを当時旭川医大の河野先生と一緒にさせていただいたことです。海外学会で比較的長く講演するのめさることながら、北島政樹先生はじめ、Prof. Micheal Sarr, Emeritus Prof. Peter Morris など欧米の外科のレジェンドや大御所の先生方を前に公演した時は、まるで学位審査をされているような気持ちでした (笑)。講演後は非常にフランクにご質問や貴重なコメントを頂き大きな励みになりました (写真 1)。この機会を境にして日本発祥の漢方が KAMPO として世界に認識されはじめたのではないかと考えています。

もう一つは今年 2015 年タイのバンコクでの学会 (46th WCS) です。今年はある意味、非常に記憶に残る学会であったと思います。学会的には名称を万国外科学会 (International Society of Surgery) から、世界外科学会 (World Society of Surgery) に変更するという議論があった後の学会であったということです (結局は名称の変更なし)。社会的には、皆さんもご存知のごとくバンコクの中心街、特に学会会場のすぐ近くのエラワン廟でテロによる爆発テロ事件が学会の始まる直前 (8 月 17 日) に起こったことです。このことが日本でも大々的に報道され、安全等の配慮により日本からの発表がキャンセルになりました。我々徳島大学チームは、私はキャンセルせず参加す

るつもりでしたが教室員には無理せず自分で考え (家族とも相談して) 参加の是非を決めるように伝えた結果、皆も是非行きたいとのことで予定通り 4 人で参加しました。日本の演者のキャンセルにより、全体的にセッションが成り立たなくなったり (写真 2)、議論のクオリティーが極めて低い状況を見ることになりました。この事実は、万国外科学会の中で日本からの演題が多いのとその研究・発表の質の高さを裏付けていると確信しました。一方、バンコク自体は、実際に現地に赴くと治安は悪くなく逆に爆発の後だったので警備が相当強化されており (ホテルやデパートへの入場時の持ち物検査など)、安心して楽しく滞在することができました。この出来事は私達日本人が持つ潜在的なグローバル化の中での弱点を如実にあらわしているように感じました。欧米諸国からの参加者はほとんどキャンセルがなく国際化における立場の違いが大きいと感じました (写真 3)。

いずれにせよ、我々日本支部は、万国外科学会の中で学術的には演題数、演題の質など中心的な役割を果たす立場にあるということ、政治的な意味でもとうまく学会の中心に入り込む必要があるということ、またそのペースにはグローバル化という意味をもう一段掘り下げてリスクを含め欧米諸国と同レベルで具現化することが必要であるということを再認識することが重要と感じています。これらを銘記し実践に移すことによって、日本支部の今後益々の発展に繋がります万国外科学会の中で真の意味でリーダーシップを発揮することができるようになると思考します。皆さん、“外科の矜持”をもって日本支部の発展に貢献しようではありませんか！

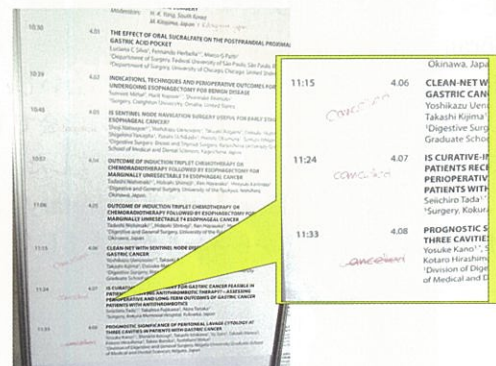


写真2

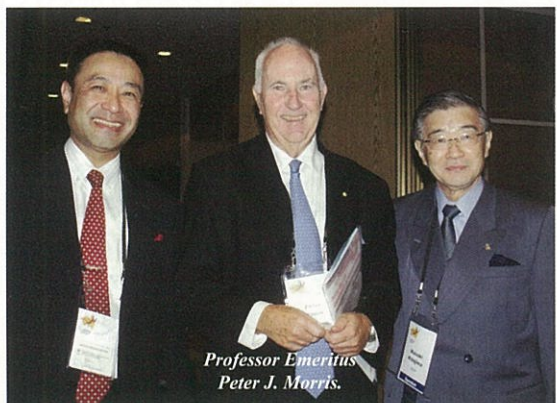


写真1



写真3

写真1 北島政樹先生とEmeritus Prof. Peter Morrisと一緒に

写真2 日本のキャンセルで成り立たなくなったセッション

写真3 北川雄光先生とSeoul National University Prof. Han-Kwang Yangと一緒に

ISDS President-elect に 選出されて

浜松医科大学外科学第二講座教授
ISDS President Elect

今野弘之



本年 Bangkok で開催された ISS/SIC の World Congress において 2019 ISDS President-elect に選出されました。大変名誉なことと思っております。また、総会に諸般の事情のため私自身が参加できず、北川雄光教授をはじめ Japan Chapter 幹部の先生方にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げますと共に、ISDS President-elect 選出に際して多大なご尽力を賜りましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。去る 10 月に開催された ACS で、Patti 教授、Ferrerres 教授とお会いしてお詫びと御礼を申し上げて参りましたが、お二人とも快くご理解頂いた上に、今後の方針についていろいろとご教示頂き、大変有難いことと思っています。

世界の外科のリーダーたちと共に本邦の指導的立場にある先生方が、万国外科学会の発展に多大な貢献をされてきましたが、日本支部ニュースを改めて拝読し、諸先輩のご尽力と熱意に感銘を受けました。万国外科学会日本支部名誉会長の比企能樹先生が最近の日本支部ニュース（第 38 号；2014 年 4 月）に ISS/SIC の創立について触れられております。ISS/SIC は 1902 年にベルギーで創設され、1905 年にブリュッセルで第 1 回学会が開催されて以来、1 世紀以上の長きに

渡り、世界で最も古い外科の国際学会として、現在まで活動を続けております。1926 年、第 7 回学会に九州帝国大学 三宅速先生が参加されて以降、多くの先輩方がこの学会に参加され、世界に目を向けてこられました。平成 8 年の日本支部ニュースには、出月康夫先生、比企能樹先生、山川達郎先生が寄稿され、1995 年からの 2 年間、出月康夫先生が万国外科学会会長を務められること、比企能樹先生が初代日本支部長、山川達郎先生が事務局長として約 200 名の会員と共に、米、独に続いて Japan Chapter としての活動が開始されることが紹介されています。この時点から ISS/SIC における日本の存在感が年々高まってきたものと思っています。また、国際活動を意欲的に展開された当教室の故馬場正三名誉教授が、幹事として日本支部の活動を支えられたことも、寡聞にして初めて知りました。今回の選出に関して、先生がご存命ならばお慶び頂けたであろうと思います。

ISS/SIC 本部の Mr. Victor Bertschi から現在の ISS/SIC structure 及び Committee Member の Guideline を教えて頂きました。2009 年から ISDS は、他の 5 つの Society と共に Integrated Society の一つとして、新たに命名された Collective Member としての中心的な役割を果たしています。Bangkok の World Congress までは米国の Young-Fadok 教授が ISDS President でしたが、現在はアルゼンチンの Ferreres 教授が務められています。Japan Chapter に対する期待は大きく、Ferrerres 教授は LOC も兼任されますので、「タンゴも料理も海も最高だから、是非ともたくさんブエノスアイレスに来てください」とおっしゃっていました。ISDS は米国、アジア、さらに欧州の参加国を増やそうとしています。本邦の外科系学会、例えば JSGS も本年の 70 回総会から国際化に大きく舵を切りましたが、ISS/SIC においても本邦外科の果たすべき役割は益々大きくなっていると思います。会員の先生方には引き続き、ご指導とご支援をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

外科代謝栄養学の新たな潮流

藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学教授
IASMEN President Elect

東口高志



伝統ある万国外科学会（ISS/SIC）の日本支部ニュースに執筆させていただけることを身に余る光栄と感じております。

私は 1981 年に三重大学医学部を卒業後、直ちに水本龍二名誉教授率いる第一外科学講座に入局いたしました。肝胆脾の外科医として研鑽を積むとともに、当時あまり重視されていなかった代謝栄養学を駆使して切除後残存肝の再生促進の研究に取り組みました。その際の知見では、術前栄養状態の改善や、経腸・経口栄養の術後早期実施、分岐鎖アミノ酸（BCAA）の周術期投与などが残存肝の再生を促進することがわかりました。今では当たり前のことですが、これまでの数々の外科代謝栄養学のエビデンスは手術成績の向上に一役買ってきました。一方、1998 年に鈴鹿中央総合病院に初の全科型 NST（Nutrition Support Team）が設立されて以来、この NST を全国に普及することを目的として、私が現在理事長を務めております日本静脈経腸栄養学会（JSPEN）に NST プロジェクト（当時の理事長：小越章平教授）が立ち上げられ、2006 年には NST 活動が診療報酬に組み入れられました。現在、全国の 1600 以上の病院に NST が設置されるようになりました。この NST 普及の背景には外科代謝栄養学の進歩が大きく関わっています。術前の免疫学的栄養療法（immunonutrition）の導入や、術後早期の経口・経腸栄養の開始、さらにそれらの進化形としてバンコクで開催されました第 42 回 World Congress of Surgery (WCS) の International Association for Surgical Metabolism and Nutrition (IASMEN) のセッションで取り上げられた Enhanced recovery after surgery (ERAS) の普及などがその主軸を演じております。ERAS とは、術後の早期改善・回復および社会復帰を目指した栄養管理、低侵襲、疼痛管理などを統括した新しい周術期管理で、欧州ではスタンダードとなりつつあります。このような外科治療に連動する代謝・栄養管理の進歩をいち早く取り入れ、わが国の現状に応じた形に変換し、それを超える新たな潮流を作ることが私たちの務めであると思っております。

さて、私は 2013 年より近畿大学名誉教授の大柳治正先生の後継として IASMEN の Vice-President を 2 年間務めさせていただき、第 42 回 WCS におきまして、IASMEN の President-Elect を拝命いたしました。新 President に

は前任の José Eduardo Aguilar-Nascimento 教授に代わり、英国、ノッティンガム大学の Dileep Lobo 教授が就任され、彼を中心に IASMEN の振興にできる限りの努力をいたしたいと思っています。また、この期に日本支部から Secretary/Treasurer として兵庫医科大学集中治療部の小谷穰治教授、また Education Chair には帝京大学外科の福島亮治教授にご就任いただき、IASMEN の活動強化をはかりたいと考えています。まずは、本会の活動をより多くの若手外科医にご理解いただき、同時に IASMEN だけでなく ISS/SIC の素晴らしさを共有できるようになればと一同決意を新たにしております。今後とも皆様のご指導ならびにご協力を心よりお願い申し上げます。

IASMEN (International Association of Surgical Metabolism and Nutrition) committee (2013-2015)

Vice President: Takashi Higashiguchi, Professor, Fujita Health University School of Medicine

Member Educational Committee: Joji Kotani, Professor, Hyogo College of Medicine

Member Educational Committee: Yutaka Sanada, Professor, Showa University Fujigaoka Hospital

Member at Large: Harumasa Ohyanagi, Prof. Em., Kinki University



IASMEN の新コアメンバー（2015 年 8 月バンコクにて）



IASMEN の歴代の presidents と日本のコアメンバー（2015 年 8 月バンコクにて）

Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapter WCS2015 Bangkok 受賞者紹介

Yokohama Award は ISW2011 Yokohama の余剰金を基金とし、若手外科医の WCS への参加を支援する目的で創設されました。WCS に優れた演題を提出した 40 歳以下の外科医に授与されます (応募には日本支部会員による推薦が必要)。第 2 回である Yokohama Award WCS2015 Bangkok は応募抄録の厳正な審査の結果、次の 5 名の先生が受賞しました。

受賞者は ISS/SIC Foundation Travel Scholarship を始めとする他の Travel Award 受賞者とともに WCS Bangkok 2 日目 Early Morning Session での表彰式に出席し、北川日本支部長からの紹介、証書の授与を受けました。



新潟大学大学院医歯学総合研究科 消化器・一般外科学分野

永橋 昌幸

万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、バンコクで開催された WCS 2015 において、第二回 Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapter を賜り、非常に光栄に存じます。このような栄誉ある賞を頂き、関係者の先生方に心より御礼申し上げます。

受賞演題は「A bioactive lipid mediator, sphingosine-1-phosphate links increased metastatic niches and lung metastasis of breast cancer」で、脂質メディエーターであるスフィンゴシン-1-リン酸 (S1P) が、乳癌の前転移ニッチ形成に関与しているということを動物実験で明らかにしました。S1P は、脂質でありながらタンパク質と同様に細胞情報伝達物質として働き、癌の浸潤、転移などに関与

していることが分かってきました。癌における新たな治療標的としても S1P は注目されています。今回は学会に参加することができず、研究成果を発表できずに誠に残念でしたが、Yokohama Award を受賞できたことを大きな励みとして、より一層研究に邁進し、臨床に役立てることができるよう精進して参りたいと存じます。

最後に本研究を遂行するにあたり、ご指導を頂きました新潟大学消化器・一般外科学分野教授若井俊文先生、米国留学時にお世話になりましたバージニア州立大学腫瘍外科准教授高部和明先生、同生化学主任教授サラ・スピーゲル先生に深く感謝を申し上げます。また、日頃よりお世話になっております諸先生方に御礼申し上げますとともに、いつも陰で支えてくれている家族にこの場をかりて感謝の意を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



横浜市立大学大学院医学研究科 消化器・腫瘍外科学

鈴木 紳祐

この度は、2015 年 8 月 23 日～27 日にバンコクで開催された万国外科学会 (World Congress of Surgery) において、「Yokohama Award」を受賞させていただきました。大変光栄に感じております。私の研究テーマは大腸癌肝転移巣における肥満細胞浸潤の意義について、当教室での切除症例を用いて検討したものです。当教室の遠藤格教授をはじめ、横浜市立大学がん総合医科学の市川靖史教授、免疫学教室の田村智彦教授に御指導いただき研究してまいりました。昨今、腫瘍免疫に関する報告は学会・論文などで多くなされており、今回の学会発表の場でも、聴衆の方からも多くの質問をいただきました。

学会参加直前に学会会場付近での爆破テロが起きてしまいました。そのためか、多くの日本人が学会参加を取りやめたそうです。情勢が分からない中で参加することは危険を伴うために、やむを得ない選択だと考えます。そんな中、学会で北川教授のスピーチを拝聴いたしました。「2011 年の横浜開催の際には放射能汚染の報道がある中で、多くの参加とサポートをいただきありがとうございました。2015 年の今回は我々がサポートする番です。」という様な内容であったと思います。今回、学会に参加させていただき、昼夜にわたり多くのタイの方々とは接する機会がありました。微力ではありますが、少しでも恩返し出来ていたら幸いです。

最後に、このような貴重な経験をさせていただき、万国外科学会日本支部の皆様にも深く御礼申し上げます。



ETHICON
PART OF THE Johnson & Johnson FAMILY OF COMPANIES

Better surgery for a better world

製造販売元: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー 本社 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号

東京支店 03-5561-3111 大阪支店 06-6272-1111 名古屋支店 052-734-1111 福岡支店 092-281-1111 札幌支店 011-253-1111 仙台支店 022-253-1111 新潟支店 025-253-1111 金沢支店 076-253-1111 富山支店 076-253-1111 石川支店 076-253-1111 福井支店 077-253-1111 滋賀支店 077-253-1111 京都支店 075-253-1111 大阪支店 06-6272-1111 兵庫支店 079-253-1111 岡山支店 086-253-1111 広島支店 082-253-1111 山口支店 083-253-1111 徳島支店 087-253-1111 高松支店 087-253-1111 香川支店 087-253-1111 愛媛支店 089-253-1111 高知支店 098-253-1111 福岡支店 092-281-1111 佐賀支店 095-253-1111 長門支店 095-253-1111 大分支店 097-253-1111 熊本支店 096-253-1111 鹿儿岛支店 099-253-1111 沖縄支店 098-253-1111

NOVARTIS ONCOLOGY

ここにあげたすべての処方箋医薬品は、「注意—医師等の処方箋により使用すること」。効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

アフィニール錠 2.5mg/5mg

抗悪性腫瘍薬 (mTOR阻害剤)

エベロシム錠

抗悪性腫瘍薬 (チロシンキナーゼ阻害剤)

フェマラ錠 2.5mg

抗悪性腫瘍薬 (エストロゲン拮抗剤)

グリベック錠 100mg

抗悪性腫瘍薬 (チロシンキナーゼ阻害剤)

イクゼイト 125mg/500mg

抗悪性腫瘍薬 (チロシンキナーゼ阻害剤)

ゾメタ点滴静注 4mg/100mL

抗悪性腫瘍薬 (チロシンキナーゼ阻害剤)

タシグナカプセル 150mg/200mg

抗悪性腫瘍薬 (チロシンキナーゼ阻害剤)

サンドスタチン LAR 筋注用

抗悪性腫瘍薬 (チロシンキナーゼ阻害剤)

製造販売: ノバルティス ファーマ株式会社 東京都港区虎ノ門1-23-1 〒105-6333

《資料請求先》 0120-003-293 (受付時間: 月～金 9:00～17:00) (土日祝日及び休日はお休み)

www.novartis.co.jp

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

廣瀬 雄己

万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、World Congress of Surgery 2015(WCS 2015)において、第二回 Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapter を受賞させていただき、大変光栄に存じます。

今回、受賞させていただいた演題は「Prognostic Significance of p27 Expression in NASH-related Hepatocellular Carcinoma」というタイトルで、最近増加している NASH（非アルコール性脂肪肝炎）を背景とした肝細胞癌において、細胞周期調節因子である p27 に着目し、p-p27（S10）（10 番目のセリンがリン酸化された p27）の発

現の有無が NASH 関連肝細胞癌の予後と関連があることを報告させていただきました。この度、このような素晴らしい賞を受賞できたことは、ひとえに諸先輩方のご指導あつての賜物です。この場を借りてお礼申し上げます。

万国外科学会は外科学分野で最も歴史のある国際学会であり、また、知的刺激に溢れた素晴らしい学会であることを当教室の若井俊文教授からご教示いただき、WCS 2015 に参加できることを大変心待ちにしておりましたが、直前に当教室として参加を見合わせていただく事態となり、残念でなりません。

今回の受賞を糧として、臨床で得た疑問から新たな研究を立案し、世界へ向けて研究成果を発信し続ける外科医を目指します。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



東京医科歯科大学医学部付属病院 救命救急センター
藤沢市民病院 外科

中堤 啓太

Yokohama Award。私のような若輩者がこのような名誉ある賞をいただき、大変恐縮です。卒後3年目に、母校である東京医科歯科大学救命医学講座に入局。臨床の研鑽と並行して、上司の熱い指導のもと行った研究が、このような形で評価されたことをとても嬉しく思います。本当にありがとうございます。

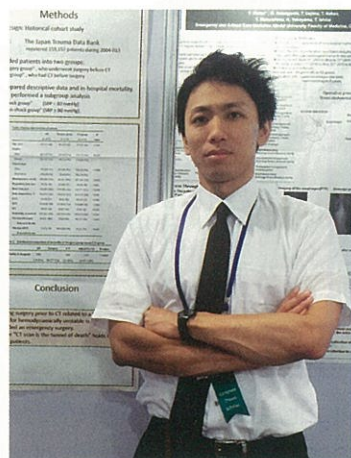
タイにて行われた今回の万国外科学会は、私にとって初めての国際学会でした。発表の準備から始まり、日程調節など、慣れないことの連続であり、また外科専門医試験も重なり、非常に慌ただしい日々でしたが、かけがえのない経験を得られたと感じています。自らの英語での初の発表ももちろんですが、学会場の雰囲気、他者の

発表の様子、懇親会の規模の大きさなど、今後の仕事のモチベーションとなるものを体感できました。

現状、臨床、研究ともに半人前の自分ですが、こういった国際学会で一人前に自分の意見述べることのできる医師を目指して奮闘していきたいとの気持ちが強くなりました。この賞の受賞は私にとって一つのきっかけになると考えています。

また、タイは、あのような不幸な事件の後、安全かつ快適に過ごすことができ、同行した同期、先輩とともに、非常に充実した滞在となりました。昼の清々しさ、夜の怪しさも大切な思い出であり、仕事抜きで再来したいと思える素晴らしい国と感じました。

長文、駄文、失礼致しました。日々精進し、日本の医療に貢献できるよう努力したいと思います。今後とも何卒宜しくお願い致します。



済生会横浜市東部病院 外科

齋田 文貴

この度、2015 年 8 月 23 日から 27 日までバンコクで開催されました万国外科学会（International Surgical Week 改め World Congress of Surgery 2015）において、第 2 回目の Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapter を受賞させて頂きまして誠にありがとうございました。

私は昭和大学を卒業後、現在勤務している済生会横浜市東部病院にて初期研修を終え、夢である外傷外科医を目指すべく東京医科歯科大学医学部付属病院 救命救急センターに入局し救急医を目指す傍ら、現在は外科研修をさせて頂いております卒後 5 年目の若輩者です。その私がこの度このような名誉ある賞を受賞できたことを大変光栄に思います。

今回発表させて頂いた研究は「The preoperative predictors of ileocecal resection or right side hemicolectomy for acute

appendicitis」で 1000 例のデータ収集の末、自分の名前を用いた「SAIDA Scale」という予測因子を開発した為、発表させて頂きました。

国際学会での発表は、初めての経験で緊張もありましたがとても良い経験となり学会全体を通して勉強になる事が多く有意義な学会で、人生の中でも忘れられない 1 ページとして記憶に刻まれました。

何よりも一番嬉しかった事は、1 番大きな会場の大きな舞台の壇上に名前を呼ばれて立ち上がり、Yokohama Award を受賞し各国の方々から拍手を送られた瞬間でした。

今回の経験を糧にこれからも外傷外科医を目指しながら研鑽を積んでいき、自分の医師人生を輝かせ日本の医療の未来に少しでも貢献できたらと存じます。

今回このような貴重な経験をさせて頂きまして、万国外科学会日本支部の関係者の皆様には深く御礼を申し上げます。本当に有難う御座いました。



善意と医療のかけ橋

献血 ヴェンゴロブリンH 日赤 ポリグロブリンN ノイアート

クロスエイトM 献血 アルブミン 25%「ベネシス」

献血 アルブミン 5%「ベネシス」 赤十字 アルブミン 25%/20% 赤十字 アルブミン 5%

日本血液製剤機構
Japan Blood Products Organization
<http://www.jbpo.or.jp>

プロトンポンプ・インヒビター エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル

ネキシウム®カプセル 10mg/20mg

薬価基準収載 処方箋医薬品（注）
（注）注意—医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、効能・効果に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元（資料請求先）
第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1

製造販売元（資料請求先）
アストラゼネカ株式会社
大阪市北区大深町3番1号
0120-189-115
（問い合わせ先）アストラゼネカ株式会社（大阪）

2015年1月作成

中外製薬 | **Roche** ロシュグループ

抗悪性腫瘍剤
劇薬、処方箋医薬品（注）
ゼロダ®錠 300
Xeloda® カペシタビン錠

（注）注意—医師等の処方箋により使用すること
（注）F. Hoffmann-L Roche AG（スイス）登録商標

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。http://www.chugai-pharm.co.jp

（資料請求先）
製造販売元 **中外製薬株式会社**
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

2015年11月作成

第39回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録

2015年4月18日(土曜日) 午前7:15～8:00

於: 名古屋国際会議場4号館3F 会議室437

出席者: 井本 滋, 宇山一朗, 遠藤 格, 小澤壯治, 掛地吉弘, 片田夏也, 金子弘真, 加納宣康, 北川博昭, 北川雄光, 北島政樹, 熊谷一秀, 桑野博行, 坂井義治, 島田英昭, 高見 博, 田中淳一, 手取屋兵夫, 寺島雅典, 中村清吾, 夏越祥次, 橋爪 誠, 馬場秀夫, 東口高志, 平田公一, 福島亮治, 藤田 尚, 藤村 隆, 松原久裕, 松本純夫, 三浦大周, 宮内 昭, 宮澤光男, 村尾佳則, 森 直治, 森 正樹, 守瀬善一, 矢永勝彦, 山上裕機, 山口茂樹, 吉田和弘, 若井俊文, 若林 剛, 和田則仁, 渡邊昌彦

(敬称略、五十音順、計45名)
(事務局: 奥田京子 丸山みよ子)

1. 開会の挨拶 北川雄光日本支部長
2. 前回議事録の確認
3. 支部活動報告
4. 決算・予算案 原案(ニュースレター40号に掲載)通り承認された。
5. ISS/SIC 理事会報告

北川日本支部長: WCS2015開催地であるタイのバンコクで理事会が行われて、会場の視察を行った。今回の会場のコンセプトはホテルから出ないで建物の中で全て完結しているということだ。北野正剛先生を後任として理事・日本支部長に推薦した。現在、学会そのもので新しいデータが発表されにくい。かわりにISSアカデミーと称して発展途上国にチームを送ってワークショップをするのがミッションとなっている。正式に学会名がISS/SICからWorld Society of Surgeryに変更される。今度の8月の学会もWorld Congress of Surgeryに変更される。万国外科学会という名称も変更しなければならない。

北島政樹先生: 「万国」という名前は非常に歴史を感じるが、若い人には馴染みがない。「世界外科学会」の方が理解はされやすい。

北川日本支部長: 次のニュースレターからは世界外科学会(World Society of Surgery)に名称変更する。承認。北野先生には2016年3月の理事会、日本支部では11月の外科学会の日本支部総会からやっていただく。ISS/SIC本部の事務局長 Victor Bertschi が34年間の任期を終えて退任された。

6. World Congress of Surgery (WCS) 2015 バンコクについて

北川日本支部長: 2015年8月23日～開催される。会場はCentara Grand & Bangkok Convention Centreである。先生方はここに泊まっていただきたい。8月24日の朝、Yokohama Awardの受賞者を含め世界各国からのTravel Scholarの受賞者が表彰され、その後にプレゼンとレクチャーがある。その日の午後5時からISDS Kitajima Prizeの発表がある。その後にJapan night懇親の場を設ける。学会会場から徒歩5分の場所で予定している。25日からは通常の学術集会。夜に各Integrated Societyの夕食会がある。26日の夜、ローズガーデンでSuan Sam Phranナイト(通常のThai Night)が企画されている。会場が遠いのでバスで移動する。タイの交通渋滞を回避する為、パトロールカーを出して先導してもらう予定である。Yokohama Award受賞の先生方には最初の表彰式から28日のワークショップまで参加してもらう。ワークショップでは現地の病院に訪問してもらい、現地の医療を体験してもらう。ISS/ISDSにおいては座長になっていただく先生方のリストを送っている。各Integrated Societyにおいても日本から多くの先生方が発表出来るように活動をしていただきたい。Yokohama Awardの受賞について、今回は10施設から27名32演題の公募があり、厳選なる審査の結果、5名の先生が受賞した。

7. Integrated Society について

IASMEN 東口高志先生: 会員数が少しではあるが増えてきている。現在はブラジルのJosé先生がPresidentであるが4年後にはなれるように努める。

北川日本支部長: 今後の世界外科学会の開催地であるが、2017年はブエノスアイリス、2019年はポーランドを予定している。ISDSの副会長を拝命している。前会長のMarco G. Pattiは2017年世界外科学会の会長になっている。タイで開催されるWCSでは、日本の演題が多く採用された。

BSI 中村清吾先生: 2年前に続き、ワークショップでは超音波とオンコプラスチックのコース2つを計画している。発展途上国への支援として、昨年はマレーシアへ行って来た。

IAES 宮内昭先生: 今回のWCS2015で3名座長になった。WCS2015ではState-of-Art lectureを務める。甲状腺の癌が世界的に増えてきているが、微小癌が増えている。それを手術しなくてもよいのではないかと病院で始めたところ、その成績が良かったので講演する。

IAES 高見博先生: 日本人の司会者が6名、症例のディスカッション、ビデオで話をする予定である。

8. 機関誌(WJS)について 北川日本支部長: 日本からは投稿も多く、評価が高い。

9. 次回支部総会日程について

回りの総会は恒例どおり日本臨床外科学会最終日早朝を予定している。

以上(文責 和田則仁)

WCS 2017 開催のお知らせ

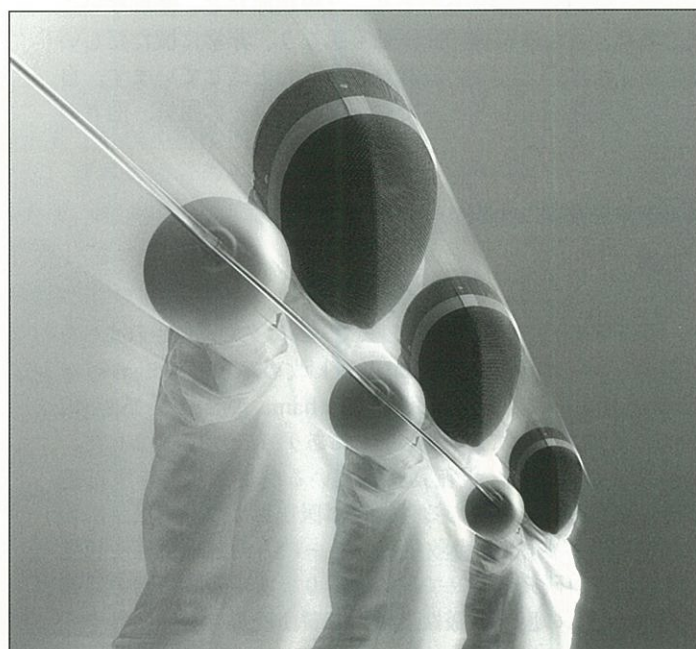
回りのWCSは

2017年8月27日～31日に

アルゼンチンのブエノスアイレスで開催されます。



**47TH WORLD CONGRESS
OF SURGERY 2017**
BUENOS AIRES, ARGENTINA
AUGUST 27-31, 2017



カルバペネム系抗生物質製剤 処方せん医薬品(注1) 薬価基準収載

フィニバックス® 点滴静注用0.25g・0.5g
キット点滴静注用0.25g

FINIBAX® 注射用ドリベネム水和物
注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること 略号: DRPM

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

製造販売元 [資料請求先]
シオノギ製薬
大阪市中央区道修町3-1-8
医薬情報センター ☎0120-956-734

FBX-KO-102B(D1)-R 審 W1730 登録商標 2014年1月作成 B71

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤 創薬、処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

アロキシ® 静注0.75mg **アロキシ**® 点滴静注用0.75mg
Aloxi® I.V. injection 0.75mg **Aloxi**® I.V. infusion bag 0.75mg

パロノセトロン塩酸塩注射剤 製造販売元 資料請求先 (医薬品情報) **TAIHO** 大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区西葛西1-27
TEL 0120-20-4527 FAX 03-3293-2451
http://www.taiho.co.jp/ 発売先 **HELSENN** スイス

2013年9月作成